

# 英語ノートデジタル版を活用した実践事例集の作成

学校名	藤岡市教育研究所
所在地	〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡 814-1
学校長	萩原 渉
研究代表者	西澤 恭順
ホームページアドレス	<a href="http://www.city.fujioka.gunma.jp/f_gako/">http://www.city.fujioka.gunma.jp/f_gako/</a>



## 1. はじめに

藤岡市では、平成15年度より小学校専属のALTを2名配置し、英語活動を全学年において行ってきた。当初は、各学年年間平均12時間程度の活動であったが、新学習指導要領移行措置が始まる平成21年度には5・6年生平均23時間、平成22年度には30時間予定と、平成23年度の完全実施（年間35時間）に向けて準備が進められている。そんな中、平成19・20年度の2カ年にわたり、市内小学校において文科省指定「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」を実施し、平成18年度に本研究所で作成した指導計画をもとに授業研究を行ってきた。その中で、特にALT不在時における発音指導の難しさの問題が出された。また、多くの学級担任にとって「英語ノート」の活用方法は未知の部分であり、担任主導で行う授業の進め方に不安を感じている。そこで、本研究では、これまでに研究開発してきた英語活動の指導計画をもとに、誰でも簡単に「英語ノート」を活用した授業を行うことができるような実践事例集を作成することとした。特に、プロジェクタと電子黒板を活用し、動画や音声を再生することにより、児童にとってわかりやすく楽しい英語活動の授業の展開が可能になると考えた。以上のことから、本研究は、ALT不在時において学級担任がICT機器（電子黒板、プロジェクタ）を使って「英語ノートデジタル版」を活用し、児童が意欲的に集中して取り組む英語活動の授業を行うことができるように考え、それを実践したものである。

## 2. 研究の目的

本研究を通して、英語ノートデジタル版を活用した、英語活動実践事例集（①年間指導計画、②1時間ごとのレッスンプラン、③コミュニケーションゲームの実践例、④電子黒板の設定と活用ガイド）の作成を行うことにより、児童が意欲的に集中して取り組む英語活動が、学級担任主導で実践できるようにする。

## 3. 研究の方法

- (1) ICT 機器（電子黒板・プロジェクタ）の環境整備  
\* 授業実践校への導入
- (2) 授業実践  
①小学校2校における授業実践（5年・6年）②授業実践の公開並びに授業研究会
- (3) 市内全校教職員向けの研修会・講演会の実施  
①ICT活用研修会 ②小学校英語活動講演会
- (4) 英語ノートデジタル版を活用した実践事例集の作成  
①年間指導計画 ②1時間ごとのレッスンプラン ③コミュニケーションゲームの実践例 ④電子黒板の設定と活用ガイド
- (5) 英語ノートデジタル版を活用した実践事例集をWeb化して公開

## 4. 研究の内容・経過

### (1) ICT 機器（電子黒板・プロジェクタ）の環境整備

本研究助成により、授業実践校2校（5年：美九里西小学校、6年：藤岡第二小学校）へ ICT 機器（電子黒板・プロジェクタ）を導入し、英語ノートデジタル版を活用した授業実践ができるよう環境を整えた。その際、梱包を解くところから、機器の接続・設定を行う手順を記録し、実践事例集に付録した「電子黒板の設定と活用ガイド」を作成した。

### (2) 授業実践

- ① 小学校2校（5年：美九里西小学校、6年：藤岡第二小学校）において年間をとおして授業実践を行い、実践事例集の1時間ごとのレッスンプランを作成した。
- ② 授業実践の公開並びに授業研究会を、市内全校教職員向けに年間3回実施した。

#### 【第1回 美九里西小学校5年 平成21年6月22日実施】

- 単元名：「友達を紹介しよう」（英語ノート1 Lesson4 I like apples.）第1時
- 主な言語材料：I like ～. Do you like ～? - Yes, I do. / No, I don't. What ～ do you like? - I like ～.
- ねらい：自分の好きなものを伝えたり相手の好きなものを尋ねたりしながら、友だちとコミュニケーションを楽しむ。
- 授業研究会における参観者の声
  - ・本時で扱う基本文を英語ノートデジタル版を使って繰り返し音声練習することで、児童は集中して取り組み、基本文に慣れていく様子が見られた。英語ノートデジタル版を使えば、ALT がいなくても発音練習できることがわかった。
  - ・インタビューゲームや友だち紹介ゲームの雰囲気が良く、担任による学級経営の重要性が見えた。

#### 【第2回 藤岡第二小学校6年 平成21年10月20日実施】


学習活動	時(分)	担任の活動・指導上の留意点（○：担任の活動 *：指導上の留意点）	
		HRT	ICT(電子黒板)
1～3 活動(略)	20	英語ノート2 P.37【Let's Chant】や P.38【Let's Play】、P.39【Let's Listen②】を行う。	
4. 活動 オリジナルチャンツを楽しむ  コミュニケーションゲーム  【オリジナル文例】 Korea I want to eat kimchi. America I want to play baseball.	20	○各グループに別々の国旗カードを配り、その国に行ってみたい理由をグループで考えさせ、チャンツをつくらせる。 *オリジナル文をつくる助けとなるよう、各国の特徴を示したヒントカードを準備しておく。 ○それぞれのオリジナルチャンツを発表させ、聞き合う。 *発表に自信を持って臨めるよう、練習する時間を十分に確保する。	○電子黒板に、英語ノート2 P.37【Let's Chant】を表示する。 
5. 振り返り	5		

図-1

- 単元名：「行ってみたい国を紹介しよう」（英語ノート2 Lesson6 I want to go to Italy.）第2時
- 主な言語材料：I want to go to ～. I want to see / eat / play ～.
- ねらい：行ってみたい国やその理由を伝える英語表現に慣れ親しむ。
- 展開 図1参照 ※太枠は英語ノートデジタル版使用場面
- 授業研究会における参観者の声
  - ・英語ノートのチャンツを自分たちが考えるオリジナルチャンツにして、コミュニケーションゲーム的に扱ったことで、自分たちがつくった英語の表現を覚えようという意欲が感じられた。
  - ・チャンツを使ってリズムに乗せてくり返し音声練習する中で、子どもたちから「言えるようになった」「できた」「覚えられた」という声が聞かれた。その満足感が、次の活動への意欲につながっていた。

#### 【第3回 美九里西小学校5年 平成21年12月2日実施】

- 単元名：「外来語を知ろう」（英語ノート1 Lesson6 What do you want?）第4時
- 主な言語材料：What do you want? - ～, please.
- ねらい：英語表現やジェスチャーで、相手の欲しいものを尋ねたり、自分が作ったフルーツパフェを紹介しながら、友達とコミュニケーションを図る。
- 展開 図-2参照 ※太枠は英語ノートデジタル版使用場面


学習活動	時間(分)	担任の活動・指導上の留意点（○：担任の活動 *：指導上の留意点）	
		担任 (HRT)	ICT (電子黒板)
1～3 活動(略)	15	*英語(挨拶・歌)リーダーを活躍させる。	
4. 活動 オリジナルフルーツパフェをつくり、紹介し合う。 【紹介文例】 Hello. I like strawberries, pineapples, bananas, and apples. This is my parfait. Thank you.	25	○好きなフルーツを紹介し、電子黒板で操作して、パフェをつくる。 *はじめにペアで紹介しあい、表現に慣れさせる。 ○児童自身がつくるパフェを、電子黒板で操作しながら、クラスの前で紹介させる。 *友達の発表に対して、それぞれの良いところを英語で褒めさせる。  ・ I like your parfait. ・ That's excellent / great / good. ・ I like your voice / gesture.	○電子黒板に、英語ノート1 P.41【Activity②】を表示する。 
5. 振り返り	5		

図-2

- 授業研究会における参観者の声
  - ・自分のフルーツパフェを英語ノートデジタル版を使って皆に紹介する活動で、児童の意欲が高まった。
  - ・一方的な発表だけでなく、友達の発表に対してそれぞれの良いところを見つけて英語で褒め合わせたことで、相手を認め合うあたたかな雰囲気が感じられた。

### (3) 市内全校教職員向けの研修会・講演会の実施

本研究助成により講師を招いて、市内全校教職員向けの研修会を実施した。

- ① ICT活用研修会 平成21年8月18日実施 40名参加  
 研修1:「フラッシュ型教材の活用方法について」  
 県内小学校教諭による模擬授業  
 研修2:「英語ノートデジタル版の活用方法について」  
 市内小学校教諭(本研究員)による説明

- ② 小学校英語活動講演会 平成21年12月2日実施  
 60名参加  
 「小学校英語活動の在り方～子どもが活躍する英語活動を!～」 講師:(株)mpi 会長 松香 洋子 先生

#### ○ 参加者の声

- ・英語ノートの実践的な使い方やコミュニケーションゲームを教えていただき、とても参考になった。早速授業でやってみたい。
- ・英語が苦手でも楽しさを味わえる体験ができた。松香先生のエネルギーな様子を見て、指導者としての姿勢を学ぶことができた。教師が楽しそうに生き生きと子どもの前に立つことで、子ども達も気持ちよく活動できるような気がした。



写真3 教職員研修会

### (4) 英語ノートデジタル版を活用した実践事例集の作成

- ①年間指導計画 ②1時間ごとのレッスンプラン  
 ③コミュニケーションゲームの実践例 ④電子黒板の設定と活用ガイド

年間を通して授業実践した1時間ごとのレッスンプラン(指導案)を実践事例集としてまとめ、各校2冊配布した。

### (5) 英語ノートデジタル版を活用した実践事例集をWeb化して公開

藤岡市教育委員会 学校教育課 Web ページに公開し、市内教職員がダウンロードして活用できるようにした。

[http://www.city.fujioka.gunma.jp/f\\_gako/](http://www.city.fujioka.gunma.jp/f_gako/)

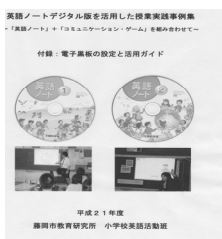


写真4 実践事例集

## 5. 研究の成果と今後の課題

### (1) 児童の変容 【アンケート結果から】

本研究授業実践2学級の児童に対して5月と11月に行った「英語活動は楽しいですか。」という問いに対するアンケートの結果は、以下のとおりである。

	とても楽しい。		どちらかと言えば楽しい。		どちらかと言えば楽しくない。		楽しくない。	
	5月アンケート	11月アンケート	5月アンケート	11月アンケート	5月アンケート	11月アンケート	5月アンケート	11月アンケート
変容があった児童の理由	13名	22名	6名	8名	2名	0名	0名	0名

#### 【変容があった児童の作文より】



写真5 発表の様子

ぼくは、最初は英語活動があまり好きではありませんでした。だけど、今になると英語活動が好きになりました。金曜日になると来週の時間割を見て、来週は英語があるかと確かめます。ないときは少し残念です。あるとうれしいです。英語の時間で楽しいことは、ゲームや新しい英語を学んだときです。歌や踊りも楽しいです。踊りを家ですると、兄ちゃんがよく笑います。その時はぼくも楽しいです。今度はいつ英語があるか、楽しみです。

### (2) 研究の成果

- 英語ノートデジタル版を用いた授業を展開したことは、ALT がいなくても学級担任が英語活動を計画的・系統的に進めるための道しるべとなり有効であった。また、児童の授業への集中力と学習に対する意欲が高まった。特に、授業の導入の段階で、チャンツやリスニングの活動に ICT を用いたことは、英語のリズムに慣れ親しみ、英語学習をする雰囲気づくりに役立った。さらには、英語ノートデジタル版で学んだ表現を、友達とのコミュニケーションゲームの中でさらにくり返し使うことで、楽しく英語に慣れ親しむことができた。また、楽しいコミュニケーションゲームを通して、児童同士の親近感が増し、互いの人間関係を深めることにもつながった。
- 本研究で作成した実践事例集をもとに平成22年度の指導計画を立てる学校が出てきている。授業公開や演習型の研修会・講演会を開催したことは、先生達の英語活動の授業のイメージが明確になり、「まずは、まねしてやってみよう」という意欲につながった。

### (3) 今後の課題

平成21年度末に市内5・6年全学級に電子黒板、プロジェクトが設置されたので、英語ノートデジタル版を活用した授業実践が進められるよう、事例集の活用について呼びかけていく。また、今後も授業公開や教職員の研修会を実施し、英語活動の授業づくりや ICT 機器の活用に慣れる機会を設けていく。

### 参考文献

- 「小学校外国語活動研修ガイドブック」(文部科学省)
- 「すぐに役立つ小学校英語活動ガイドブック」菅正隆著(暁星)
- 「高学年のための小学校英語」小川隆夫著(松香フォニクス研究所) 他